

やまと歌漫遊記

第1回「漫遊先々奈良－戦国」

歌の作者	資料名	著者名	出版者	出版年	請求記号
作者未詳	万葉集：西本願寺本；巻第11		主婦の友社	1984	911.12/168/11:L
	和歌：かくばかり恋ひつつあらずは朝に日に妹が踏むらむ土にあらましを				
	万葉集：西本願寺本；巻第12		主婦の友社	1984	911.12/168/12:L
	和歌：丈夫(ますらを)の聡(さと)き心も今はなし恋の奴(やっこ)に我は死ぬべし				
	<p>作者未詳 『万葉集』4500首余りの約3分の1に相当する1800首余りが作者未詳歌である。巻14の東歌の他、巻7、10、11、12、13などに多くみえるそれらの作品が、滔々と流れる大河のごとく万葉の基層をなしていたことも忘れてはならないだろう。</p> <p>出典：【万葉集】 日本大百科全書(ニッポニカ) JapanKnowledge https://japanknowledge.com</p>				
	【電子ブック】 古代の恋愛生活：万葉集の恋歌を読む	古橋信孝著	吉川弘文館	2016	(収録データベース) KinoDen
小野小町	風雅和歌集全注釈；上巻 (笠間注釈叢刊；34)	岩佐美代子著	笠間書院	2002	911.14/139/1
	和歌：夏の夜のわびしきことは夢をだにみるほどもなくあくるなりけり				
	<p>小野小町 [?-?] 平安時代前期の歌人。 六歌仙、三十六歌仙のひとり。父母、経歴などに諸説があり、確かなことは不明。歌は「古今和歌集」「後撰和歌集」などの勅撰集に60余首おさめられ、その中に文屋康秀(ふんやのやすひで)らとの贈答歌もある。</p> <p>出典：【小野小町】 日本人名大辞典 JapanKnowledge https://japanknowledge.com</p>				
紫式部	正訳紫式部日記：本文対照	紫式部著； 中野幸一訳	勉誠出版	2018	915.3/104
	【電子ブック】 正訳紫式部日記：本文対照	紫式部著； 中野幸一訳	勉誠出版	2018	(収録データベース) KinoDen
	和歌：水鳥を水の上とやよそに見むわれも浮きたる世を過ぐしつつ				

やまと歌漫遊記

第1回「漫遊先々奈良－戦国」

歌の作者	資料名	著者名	出版者	出版年	請求記号
紫式部	<p>紫式部 [?-?] 平安中期の女流文学者。歌人・学者の家に生まれる。夫と死別後、『源氏物語』を書き始め、文才を認められて道長の娘彰子に仕えた。『源氏物語』の他、『紫式部日記』、家集『紫式部集』がある。平安朝随一の才女として、その後の文学に多大な影響を与えた。</p> <p>出典：【紫式部】 小学館 全文全訳古語辞典 JapanKnowledge https://japanknowledge.com</p>				
武蔵坊弁慶	義経記 (日本古典文学大系; 37)	岡見正雄校注	岩波書店	1959	F2b/396/37
	<p>和歌：六道の道の衢(ちまた)に待てよ君後れ先立つ習ありとも</p> <p>武蔵坊弁慶 [?-1189] 伝説色の濃い豪勇の法師。武蔵坊と称し、源義経の家来として活躍した。『吾妻鏡』に、源頼朝の追討を避けて京都を落ちる義経の従者の1人に「弁慶法師」「武蔵房弁慶」と見えるが、その生涯は明らかでない。『義経記』などによると、洛中に出て他人の太刀を奪い取り、1000本目に義経の太刀を狙ったが果たせず、義経と君臣の契約を結び、以後彼に従う。</p> <p>出典：【弁慶】 日本大百科全書 (ニッポニカ) JapanKnowledge https://japanknowledge.com</p>				
織田信長	戦国武将歌 (日本秀歌; 12)	川田順著	春秋社	1957	F2j/750/12
	<p>和歌：今川の流れの末も絶えはてて千本のさくら散りすぎにけり</p> <p>織田信長 [1534-1582] 戦国・安土桃山時代の武将。桶狭間に今川義元を討って尾張一国を統一。のち、京都に上って比叡山を焼き、浅井氏・朝倉氏を破り、将軍足利義昭を追放、武田勝頼を三河の長篠に破ったのち、安土に築城。中国出陣の途中、京都本能寺で明智光秀の謀反にあって自殺。</p> <p>出典：【織田信長】 デジタル大辞泉 JapanKnowledge https://japanknowledge.com</p>				
	<p>【電子ブック】 新編日本古典文学全集 (万葉集、新古今和歌集ほか)</p>		小学館		<p>(収録データベース) JapanKnowledge Lib JapanKnowledge >本棚> 新編日本古典文学全集</p>
	<p>【電子ブック】 新編国歌大観 (古今和歌集、風雅和歌集ほか)</p>		角川書店	1983-1992	<p>(収録データベース) JapanKnowledge Lib JapanKnowledge >本棚> 新編国歌大観</p>

やまと歌漫遊記

第2回「漫遊先〇明治－大正」

歌の作者	資料名	著者名	出版者	出版年	請求記号
夏目漱石	書簡：上 (定本漱石全集；第22巻)	夏目金之助著	岩波書店	2019	918.6/45/22
	短歌：あるは鬼、あるは仏となる身なり浮世の風の変わるたんびに				
	<p>夏目漱石 [1867-1916] 小説家・英文学者。江戸の生まれ。本名、金之助。英国留学後、教職を辞して朝日新聞の専属作家となった。自然主義に対立し、心理的手法で近代人の孤独やエゴイズムを追求、晩年は「則天去私」の境地を求めた。日本近代文学の代表的作家。</p> <p>出典：【夏目漱石】 デジタル大辞泉 JapanKnowledge https://japanknowledge.com</p>				
森鷗外	鷗外全集；第19巻	森林太郎著； 木下杢太郎編	岩波書店	1973	918.6/12/19
	短歌：我といふ大海の波汝(なれ)といふ動かぬ岸を打てども打てども				
	<p>森鷗外 [1862-1922] 小説家・評論家・翻訳家・軍医。島根の生まれ。森茉莉の父。陸軍軍医としてドイツに留学。軍医として昇進する一方、翻訳・評論・創作・文芸誌刊行などの多彩な文学活動を展開。晩年、帝室博物館長。</p> <p>出典：【森鷗外】 デジタル大辞泉 JapanKnowledge https://japanknowledge.com</p>				
樋口一葉	樋口一葉全集；第3巻上	樋口一葉著；塩田良平、和田芳恵、樋口悦責任編集	筑摩書房	1976	918.6/18/3-1
	短歌：いて(で)や君など(ど)さは寝ぬそ(ぞ)ぬは(ば)玉のよは夢そ(ぞ)かしよは夢そ(ぞ)かし				
	樋口一葉全集；第4巻上	樋口一葉著；塩田良平、和田芳恵、樋口悦責任編集	筑摩書房	1981	918.6/18/4-1
	短歌：打なひ(び)く柳を見れば(ば)のと(ど)か成おほ(ぼ)ろ月夜も風は有けり				
<p>樋口一葉 [1872-1896] 明治時代の小説家。東京の生まれ。15歳のとき中島歌子の萩(はぎ)の舎(や)塾に入門、桂園派の和歌を学んだが、1889年に父が死去、女戸主として一家の生計を支えてゆくために、職業作家となる決意をかためた。西鶴の文体を規範に、明治女性の〈口惜しさ〉を昇華したところに、一葉文学の特色がある。なお死の直前まで書きつがれた日記は、明治の女書生としての一葉を伝える貴重なヒューマンドキュメントである。</p> <p>出典：【樋口一葉】 世界大百科事典 JapanKnowledge https://japanknowledge.com</p>					

やまと歌漫遊記

第2回「漫遊先〇明治－大正」

歌の作者	資料名	著者名	出版者	出版年	請求記号
宮沢賢治	校本宮沢賢治全集；第1巻	宮沢賢治著	筑摩書房	1973	F2b/235/1
	短歌：弦月の露台にきたりかなしみをすべて去らんとねがひたりしも				
	<p>宮沢賢治 [1896-1933] 詩人・童話作家。岩手の生まれ。法華経に傾倒し、農学校教師・農業技師として農民生活の向上に尽くすかたわら、東北地方の自然と生活を題材に、詩や童話を書いた。</p> <p>出典：【宮沢賢治】 デジタル大辞泉 JapanKnowledge https://japanknowledge.com</p>				
岡本かの子	岡本かの子全集；第8巻	岡本かの子著	冬樹社	1976	F2b/250/8
	短歌：うつらうつらわが夢むらく遠方(をちかた)の水晶山に散るさくら花				
	<p>岡本かの子 [1889-1939] 小説家、歌人。東京の生まれ。跡見女学校入学のころより『文章世界』『読売新聞』文芸欄などに短歌、詩を投稿。第2次『新思潮』に属する次兄雪之助（大貫晶川）とその友人谷崎潤一郎の影響を受ける。同女学校卒業後、1906年与謝野鉄幹、晶子の新詩社に加わり、『明星』から浪漫派歌人として出発、同誌廃刊後は『スバル』同人となる。</p> <p>出典：【岡本かの子】 日本大百科全書(ニッポニカ) JapanKnowledge https://japanknowledge.com</p>				
	【電子ブック】 狂歌	宇田敏彦注解	小学館	2012	(収録データベース) JapanKnowledge Lib
石川啄木	【電子ブック】 啄木短歌に時代を読む	近藤典彦著	吉川弘文館	2017	(収録データベース) KinoDen
	<p>石川啄木 [1886-1912] 明治末期の浪漫派の歌人、詩人。岩手の生まれ。与謝野鉄幹夫妻に師事。口語体の三行書きによる生活派の歌をよんだ。また評論「時代閉塞の現状」などで社会主義への関心を示した。</p> <p>出典：【石川啄木】 日本国語大辞典 JapanKnowledge https://japanknowledge.com</p>				

【電子ブックの利用方法】

- 自宅など学外のPCから電子ブックを利用するには、「VPN接続 (Any Connect)」が必要です。
・[インストールはこちら](#) ・[VPNについてよくある質問](#)
- 本の同時アクセス上限を超えた場合は、時間をおいて再度アクセスしてください。